民放祭へ参加番組

「足寄のスーパースター」

千春のひとりうた

（本紙に掲載の写真はいずれもファンの方々からお送りして頂いたものです）

松山千春ノことし二十一才、北海道足寄郡足寄町出身、ことし一月二十五日、「旅立ち」という曲でシンガーソングライターとしてデビュー、北海道で爆発的人気を得ている（吉剛さんの彼ちようなナレーションではじまりましたが、いささかオーバーに）

「松山千春って知ってますか」

「知ってます。シャベリ方が好きなのネ」

「千春は素朴で親しみ易いところが好きです」

「ショウケンに似ているからカッコいい」

「歌もいいしさ、話し方おもしろいしさ、なかなか魅力あるんじゃない。素直でさ、世間の波にもまれていないしさ、商売根性がなく素直でいいんじゃない」

千春「チョップと聞いたあたいして有名になったもんだ（笑声）世間の波にもまれていないって一のどくもまれちやって、細なんかプヤ気ちやって（笑声）きようはこのSTVホールにみんな集ってもらってありがとうございます。足寄ってとこあまり知らないんじやない、全体の広さだけは日本一よ、大体阿寒と大雪にかこまれたようなもんかな、山しかないんだよネ、このあいだ足寄ってデパートいくつあるんですか（笑声）バカにしてるかと思ったネ百貨店はないけど十貨店くらいはあるよ。人間の数より牛の数が多いんじゃないかな（笑声）チョッと淋しいけど、東京のやつらあんな狭いところにゴチャゴチャかたまっていないで足寄へ引越してくればいいと思う（笑声）山で生きている誇りだけはもっているつもりで、九州へいっても大阪へいこうと、どこへいってもオレは足寄の松山千春、北海道の松山千春と大きなツラで歌ってくるんです。オレの同級生はほとんど出ていって、札幌とか東京とか大阪とか九州にもいる、高校を卒業すると進学、就職のわかれでネ、みんな出ていって過疎地の中心地みたいなもので（笑声）そんなときにできた曲だったんです旅立ち」（ここで「旅立ち」を歌う）

（ホテルでファンからの電話に）

貧乏っていいもんです

このあと自宅でファンからの電話に出る父親の声、足寄でのコンサートのもようの録音などを紹介して

「戸川と申します（千春の高校時代の担任先生）勉強は優秀なんですがね大体三年間クラスでトップで、三年間バスケットをやって勉強とスポーツを両立させて、ガリ勉というタイプでないんですネ、いつ勉強してるのかと思うんだけれど、試験やると成績いいしほかのこと人といっしょにやっていましたネ」

「あいつは頭がいいんですネ（高校の先輩）ピッタリしたのは高校三年のとき、千春どのくらいの成績だと話したらボクは昆布ですというんだ、成績表を見せてくれたらトップなんで驚いたネ、ボクは市暴茂和です」

千春「勉強になるネー、担任の先生も先輩もほめてくれたんだけど、ガキのころ悪かったんだよネ、車のアンテナあるでしょう、あれを取るのがおもしろくて警察につかまって、もう私は二度とやりません、とかいって拇印を押しちやってネ、あのころはひどかったネ、家が貧しいといえば非常に貧しいけど貧乏だったのネ、ホント家には金なかったネ、貧乏したのもオレのせいもあるんだ」

『生れて半年かたって腕関節脱臼という診断で入院したんです（父の声）ところがそうでなかったんです。もっとひどい症状で北大へ入院せといわれて命の問題となったわけです、そして完全治療をしたわけです』

「それで借金をして（母の声）だからもう売るものは売りつくして、もう医者はダメだっていってましたしね、うちではもう葬式の用意をしてたんです、あの子は…」

（テレビに出演の場面から）

千春「うちのおやじは小さなローカル新聞をやっているんで、オレは生れたとき小児マヒみたいな症状で北大の病院に入院してたわけだけど、おれのおやじは一国な面があって人に頭を下げるのが嫌いでね。オレが入院して助かるかどうかわからない、医者はあきらめなさいといってたけど、おやじは始めて頭を下げてオレのために借金をした、オレはすごくおやじのことを思っているわけ、オレが足寄を離れないというのはそういうこともあって、貧乏っていうのはいいもんですよ、オレはもう貧乏しかしらないけど、金の価値がわかったのはガキのとき弟が可愛いくてね、オレに似てね（笑声）あれが歩き出してからアメ玉たべたいっていうんで、当時五円でデッカイアメ玉、兄の誠哉を見せようと思ってポケットを探したら四円しかない、一円が足りない、家中探して畳の下に一円ないだろうかと、あと一円なんだよネ、それがすごく淋しくてネ、あのとき一円というものは大切だなあと思った、そのときさいたのが岡林信康の歌なんです（ここで「山谷ブルース」を歌い）これに非常に感動してしまってオレもひとつやってみようかと、歌をはじめたんです、岡林もそうした貧しい歌とかを歌っていて、とってもオレとしてもうれしかった、仲間がいるなあと思ってネホント貧乏っていいもんですよ、それに親って有難いです」

北海道で歌いつづける

パーン、パーンと打ちあげ花火によって足寄の春祭り皆警部に、地元のよしみで屋外特設ステージでの千春の歌声と歓声ぶりの紹介があって、岩本ディレクターのインタビューによる町の人々の声。

「千春君がいろいろやってますけど、あんな人にでもできるなら、できるなあと思った、山の方の青年にも大きな明るい希望をもたせたと思う」

「千春君を通じて〃キライ足寄のPRをしてもらっておるわけですけれども地元の町長の小林としまして大変にうれしいと思います。地元でやってくれることはいい手本というか、いい意味の刺激というか、ふるさとを見直してくれるというか、町としてこんないいことはないと思いますね、全国的に名を売ったというのあまりいないんじゃないですか」

「そうですね、全国的に知られたいと思うけれども、足寄でもっともっと活躍して頂いてあんまりスター的にならないでみんなと多く接する機会をあたえて頂きたいと思います」

「感激しちやってなにもいえません」

「日本中に足寄でガンバるというか、やっぱし私たちも足寄にいてほしいと思います」

「歌のなかで〃足寄より〃なんてすごくあたたかい味が感じられてさ、身近な人だからさ、余計に挨拶したくてね、松山さんは借金として足寄にとどまるということはうれしい」

「もっと足寄だけの人にしたいです」

千春「けどオレが札幌、東京なり出てきて暮したとしたら自分が変っていくような気がしてネ、意外に人間なんて弱いんです、自分が変るのがイヤでネ。こうした人々の声をきいて北海道で力いっぱい歌いたい みんなも力いっぱい生きてもらいたい、オレはそんなみなさんに力づけられるような歌を歌えたらいいですネ」（ここで「大空と大地の中で」を歌う、チヘルーの声援の声）

松山千春ノ歌手になって半年、六月二十五日、ファースト・アルバム「君のために作った歌」を発売、三日間で八千枚を売り、北海道のレコード店はじまっていらいの記録をつくる、八月から全道縦断コンサートをおこなう予定である（吉剛アナウンサー）

★

以上が六月二十八日午前0時から五十分間にわたってSTVラジオ「千春のアタック・ヤング」で放送されたもので、ことしの民放祭参加番組「足寄のスーパースター」としてコンクールに参加するわけです。

暑中お見舞申しあげます

小島建設株式会社
代表取締役　小島保
陸別町　T　二一三一

有限会社高倉組
代表取締役　高倉祥子
陸別町　T　二二一八

有限会社佐藤建設工業所
代表取締役　佐藤昭二
陸別町　T　二〇二九

有限会社　須藤農機製作所
取締役社長　須藤助直
足寄町中央区　T　五－二六五〇

帯広石油足寄支店
支店長　石川勲
足寄町大通り　T　五－二三七九・二二九五

新製品　超能力
バレイショ選別機
特許十一件　諸外国特許出願中

全自動高低調節装置付
万能カルチベータ
特許　実用新案　十三件

アクツ式製造元

日農機製工株式会社
取締役社長　安久津義人
足寄町南4区　T　5－2188

東北海道木材協会足寄支部　支部長　日景健治

畑中林業株式会社
代表取締役　畑中タカミ

羽磨木材株式会社
代表取締役　羽磨欣一

北都物産足寄出張所
山田健治

岡崎木材株式会社
代表取締役　岡崎薫

加藤林産株式会社
代表取締役　加藤碩

米川木材株式会社
代表取締役　米川渉

玉川木材工業株式会社
代表取締役　玉川節子

阿部木材店
阿部権太郎

麻生木材工業株式会社
代表取締役　村上忠雄

日景木材株式会社
代表取締役　日景健治

事務局　林業会館内　工藤昭策